

●レンゲに親近性のある植物（初期文案・西村担当）

レンゲに親近性ある5種の植物

（平成27年度調べ）2冊の本での比較

日本レンゲの会事務局

日本レンゲの会は、今年(平成27年5月)までのレンゲ育成傾向から、レンゲと親近性のある植物が①アメリカフウロ、②ハコベ、③オオイヌノフグリ、④ヒメオドリコソウ、⑤カラスノエンドウの5種類の“その他の草”に限定できましたので、その植物の性質と近隣種をまとめて、お知らせすることにしました。

参照書籍は、①**野外観察ハンドブック『形とくらしの雑草図鑑—見分ける、身近な280種』**

岩瀬徹著／全国農村教育協会

平成19(2007)年10月10日初版第1刷発行

②**ミニ『雑草図鑑』雑草の見分けかた**

廣田伸七/編著 全国農村教育協会

平成9(1997)年7月28日初版第4刷発行 です。

①親近性植物

【アメリカフウロ】（フウロソウ科） *Geranium carolinianum* L.

P61

越年草または1年草。1930年代に渡来が認められた帰化植物。畑、空き地、植え込み内、道端などに生育。各地に増えている。暖地では耕作地にも入り込み群生する。フウロソウ（風露草）の名はもともと亜高山帯にあるイブキフウロを指すという。

〈植生特性〉芽生え（11月）。

初めはロゼット状（4月）。

花期3～6月。散花につく。花卉5、雄しべ10。

茎は下部で枝分かれ低く広がる。高さ10～15cm。全体に軟毛が多い。

葉は互生、柄が長く掌状に深裂（5月）。

果実は長さ2cmほどのくちばしがあり、熟すと5裂して、種子を散らす。

②ミニ『雑草図鑑』より

ゲンノショウコ（フウロソウ科） *Geranium thunbergii* Sieb. et Zucc.

P142

多年草。野原や荒地、畦畔、道端などに生育する。夏に茎葉を切り取って乾燥させそれを煎じて飲むと胃腸に効く薬草である。茎は地表を横にはって広がり、長さ30～60cm。根元の葉は長い葉柄があり大きく5裂し、茎上部の葉は3裂する。全体に毛がある。7～10月に茎腋から花柄を伸ばし、白色または淡紅紫色の花をつける。果実はよくはじける。〔分布〕北海道～九州

タチフウロ（フウロソウ科） *Geranium krameri* Franch. et Savat.

P143

多年草。丘陵地から山地にかけての原野や道端に生育する。全体はゲンノショウコに似るが、根出葉の葉が深く切れ込み、裂片が細長い感じが異なる。根出葉は30cm内外の長い葉柄があり、掌状に深く切れ込む。茎は地表をはい上部は斜上して高さ60cm内外。節は高い。茎の葉は上部ほど葉柄が短くなる。7～9月に枝の先に淡紅紫色の花が2個ずつつく。〔分布〕本州～九州

②親近性植物

【ハコベ】

●コハコベ（ナデシコ科） *Stellaria media* (L.) Villars P24

越年草または1年草。畑、空き地、植え込み内、道端などに広く生育。コハコベがミドリハコベと区別されたのは大正年間といわれ、帰化植物のようにも思える。

〈植生特性〉茎は枝を分け低く広がる。赤みを帯びるものが多い（3月）。

花期は2～5月ときには秋。

花卉5で深く2裂、雄しべ1～7。雌しべ1で柱頭は3。

葉は対生。茎の片側に短毛の列。

●ミドリハコベ（ナデシコ科） *Stellaria neglecta* Weihe P24

越年草または1年草。畑や植え込みの周り、道端などに生育。コハコベより大形。古くから春の七草はこれであろう。コハコベと併せてハコベとすることもある。

〈植生特性〉茎はやや立ち上がり、高さ10～30cm。赤みを帯びない。

葉は対生、コハコベより大きい。

花期は2～6月ときには秋。

雄しべ5～10。雌しべ1で柱頭は3。

②ミニ『雑草図鑑』より

ハコベ（ナデシコ科） *Stellaria media* Villars P65

1年草または越年草。庭、畑地、あき地、道端などに最も普通に生育する春の代表的な草。茎は分枝して株になり四方に広がって上部は斜上する。高さ10～30cm。質は柔らかく片側に1列の毛がある。葉は卵円形で対生。無毛。茎の下部の葉は白色の花を多数つける。花卉は5枚だが深く2裂するので10枚に見える。

〔分布〕全国

ウシハコベ（ナデシコ科） *Stelica aquatica* Scop. P65

越年草または多年草。畑地や樹園地、道端、あき地などに生育する。ハコベに似るが全体が大形である。茎は根元で分枝し叢生する。円柱形で紅色を帯び地表を這うが先の方は斜上し、高さ10～20cm。片側に1列の毛がある。葉は卵形で先は鋭三角状に尖る、長さ2～3cm。茎の下部の葉は柄があるが上部の葉は無柄。4～7月に茎先に白い花を多数つける。〔分布〕全国

③親近性植物

【オオイヌノフグリ】（ゴマノハグサ科イヌノフグリ類） *Veronica persica* Poir P90.

越年草ときに1年草。明治中期に渡来し全国的に広がった帰化植物。田やあぜ、畑の中や周り、空き地、道端などに生育。普通は秋に発芽し春に成長するが、暖地では年内に開花したり、また春になってから発芽することもある。イヌノフグリに比べ大形。

〈植生特性〉花期は2～5月。花冠は4深裂、雄しべ2。

茎は下部で枝分かかれし低く広がる（4月）。

芽生えは、ヒメオドリコソウなどに似る（10月）。

葉は下部で対生、上部で互生。

果実は扁平で2室、中に多数の種子。

●イヌノフグリ=在来種。今は少ない。果実の形を犬のふぐり(陰囊)に譬えた(5月)。 P90

②ミニ『雑草図鑑』より

オオイヌノフグリ(ゴマノハグサ科) *Veronica persica* Poir. P94

越年草。ヨーロッパ原産の帰化植物で現在では春の代表的な雑草となっている。畑地、庭などいたるところに最も普通に生育する。秋に発生し、冬から春にかけて成長する。茎は根ぎわで分枝仕手株になって四方に広がり、長さ30~50cm。葉は卵形で少し鋸歯があり下部の葉は柄があり対生、上部は無柄で互生。1~6月に葉腋に長い花柄を出し青紫色の花をつける。[分布]全国

タチイヌノフグリ(ゴマノハグサ科) *Veronica arvensis* L. P94

越年草。ヨーロッパ原産の帰化植物。畑地、庭、道端などいたる所に普通に生育する。幼苗は秋に発生し翌春担って茎が立つ。茎は細く、多数に分枝して叢生する。名前が示すように直立して高さ10~30cm。細かい毛がある。葉は茎の下部で対生、上部で互生し広卵形でほぼ無柄。縁に鋸歯がある。4~7月に茎の上部に穂状に花をつける。花は青紫色。[分布]北海道~九州

④親近性植物

【ヒメオドリコソウ】(シソ科) *Lamium purpureum* L. P88

越年草ときに1年草。明治中期に渡来した帰化植物。空き地、田畑の周り、道端などに広く生育。多くは秋に芽生え越冬したから成長するが、春以後芽生えることもある。在来種のおドリコソウ(踊り子草)よりは小形で花もずっと小さい。

〈植生特性〉花期は2~5月。唇形花が茎上部の葉脈に集まる。

芽生えのころは、オオイヌノフグリやホトケノザに似る(5月)。

茎の根ぎわから分かれ群がって広がる。高さ20~40cm。茎は4稜、葉は十字対生。

果実は4分果(5月)。

②ミニ『雑草図鑑』より

ヒメオドリコソウ(シソ科) *Lamium purpureum* L. P90

越年草。ヨーロッパ原産の帰化植物。畑地、樹園地、土手などいたる所に普通に群生する。幼植物はホトケノザに似ている。茎は四角注状で根元で分枝し叢生する。高さ20~50cm。葉は対生し粗い鋸歯があり上部は網目状に凹み縮んで見える。両面に毛がある。3~4月に茎上部に葉が密につき、赤紫色に色づき、葉腋から輪状に紅紫色の花をつける。[分布]本州

カキドオシ(シソ科) *Glechoma hederacea* L. var. *grandis* kudo P90

多年草。畑地、樹園地、道端、土手など多く生育する。茎はつる状で四角柱状、長く伸びるので垣根をも通り越すということからカキドオシ(垣通し)という。葉は葉柄をもつ。茎・葉ともに細かい毛があり、特有の臭いもある。4~5月に葉腋に紅紫色の唇形花を多数つける。花冠の内側に紫色の斑点がある。[分布]全国

ホトケノザ(シソ科) *Lamium amplexicaule* L. P91

越年草。畑地、庭、道端などいたる所に普通に生育する春の代表的雑草。秋に発生し、翌春早くから茎が立つ。茎は四角注状で叢生し高さ10~30cm。葉は対生、円形で鈍い鋸歯がある。茎下部の葉は柄があり、上部では柄がなく半円形になって相抱く形になる。この形を仏の台座に譬えてこの名がある。3~5月に葉腋に紅紫色の唇形花を輪生する。[分布]本州~沖縄

ナギナタコウジュ (シソ科) *Elsholtzia ciliata* Hylander

P91

1年草。畑地、道端、あき地などに生育する。特に北海道や高冷地の畑では発生量の多い害草である。茎は四角柱状で多くに分枝して株になり、高さ30~60cm。葉は柄があり対生。長卵形で縁に鋸歯がある。茎・葉に腺点が散在し、特有の香気がある。9~11月に茎先に穂状に紅紫色の花が付き、穂が一方に傾いてなぎなたに似た形になるのでこの名がある。〔分布〕北海道~九州

⑤親近性植物**【カラスノエンドウ】** (マメ科) *Vicia angustifolia* L.

P56

越年草ときに1年草。田畑の周り、空き地、土手の草地、道端などに広く生育。茎は細いが巻きひげが絡み合い群がって立つ。普通在来種に扱われるが、外来系が混じって生えていると考えられる。和名は烏野豌豆の意味。別名のヤハズノエンドウは小葉の形から付けられた。

〈植生特性〉成長初期は、次第に小葉の数を増し、羽根状複葉になる(3月)。秋の芽生え初めの葉は2小葉(10月)。

花期は3~5月。複葉の先は巻きひげになる。

葉柄と蜜腺がある。茎は4稜で葉の分岐には托葉を持つ。

葉腋に2個の蝶形花、柄はごく短い。

果実は熟すとよじれて裂ける。種子は10個ほど。

●**スズメノエンドウ**=越年草。畑の周り、芝地、空き地、道端などに生育。どきに群生する。カラスノエンドウより繊細なので雀野豌豆と呼んだ。 P56

〈植生特性〉羽状複葉、小葉は細く6~8対、先は巻きひげ、花期は4~5月。

葉腋から永い柄を出し、先に3~7個の花。

果実の中に2種子。

●**カスマグサ**=越年草。全体はスズメノエンドウに似て、生育地も同様。カラスとスズメの中間の形というのでカス間と呼んでいるが、雑種ということではない。 P56

〈植生特性〉小葉は、スズメノエンドウよりやや大きい(5月)。

花期は4~5月。長い柄の先に2個の花。果実の中に4種子。

②ミニ『雑草図鑑』より**カラスノエンドウ【ハヤズエンドウ】** (マメ科) *Vicia angustifolia* L.

p76

越年草。畑地、道端、土手などに普通に生育する。秋に発生し、翌春茎が多数に分枝して株になり、高さ50~100cm。茎は四角柱状。葉は互生し、5~6対の小葉が対生する偶数羽状複葉で先は巻ひげとなって他物にからみつく。葉の基部には托葉がある。4~6月に葉腋に短い花柄のある紅紫色の蝶形花を1~2個つける。果実はさや状で熟すと黒色。〔分布〕本州~沖縄

ヤハズソウ (マメ科) *Kummerovia striata* Schindl.

P76

1年草。畑地、道端、あき地などに普通に生育し、しばしば群生する。茎は丈夫で多数に分枝し直立する。高さ10~50cm。葉は3個の小葉からなる複葉でややまばらに茎につく。小葉は長い倒卵形。葉の先を指で押さえて引っ張ると支脈沿いに楔形に切れる。この形に譬えてヤハズソウという。8~9月に葉腋に紅紫色の小さな花が1~2個つく。果実は卵形。〔分布〕全国

スズメノエンドウ (マメ科) *Vicia hirsuta* S.F.Gray

P77

越年草。畑地や道端、土手などに生育する。全体がカラスノエンドウより小形。茎は細く4稜があり、高さ30～50cm。細毛がある。葉は6～8対の小葉が互生する偶数羽状複葉で先は巻ひげとなつてからみつく。小葉の数が多く、4～5月に葉腋から長い花柄が伸び、先に3～7個の紫白色の花がつく。〔分布〕本州～沖縄

カスマグサ (マメ科) *Vicia tetrasperma* Schreb. P77

越年草。畑地、道端、畦畔などに生育する。茎は細く無毛で高さ30～60cm。葉は3～6対の小葉をもつ羽状複葉。全体は類似のカラスノエンドウより小さく、スズメノエンドウよりも大きく、ちょうど中間のことから、カラスとスズメの間ということからカス間草(マグサ)といわれる。4～5月に葉腋に花柄を伸ばし、先に通常2個の淡紫色の花をつける。〔分布〕本州～九州

ウマゴヤシ (マメ科) *Medicago polymorpha* L. P77

越年草。ヨーロッパ原産の帰化植物。良質の牧草としてしられるが逸出して野生化している。道端やあき地などに生育する。茎は根元で分枝して司法に広がり、先は斜上する。長さ20～25cm。葉は互生し柄があり、3個の小葉からなる複葉。小葉の先は凹み縁に鋸歯がある。4～5月に葉腋に黄色の花がつく。果実は螺旋状に巻き縁に先の曲がった刺がある。〔分布〕北海道～九州

コメツブウマゴヤシ (マメ科) *Medicago lupulina* L. P77

1～越年草。ヨーロッパ原産で江戸時代に渡来し、現在では畑地、道端などに生育する帰化植物。特に暖地に多い。茎は基部で分枝して叢生し、高さ40～60cm。円柱状で白い伏した毛がある。葉は互生し柄があり、3個の小葉からなる複葉。両面に白い毛が多い。2～6月に葉腋から花柄を出し、表面に脈があり黒く熟す。

クスダマツメクサ (マメ科) *Trifolium campestre* Schreb. P78

1年草。ヨーロッパ原産の帰化植物。道端やあき地などに群落を作つて生育する。茎は根元で分枝して叢生し、高さ20～40cm。葉は互生、短い柄があり、3個の小葉からなる複葉。小葉は倒卵形で先は円形あやや凹み長さ約1cm。全体にほぼ無毛。7～8月に葉腋から側枝が伸び、先に20～50個の花が径10～18mmの球状に集まつてつく。花は初め黄色、後に淡褐色。

コメツブツメクサ (マメ科) *Trifolium dubium* Sibth. P78

1年草。ヨーロッパ原産の帰化植物。芝生や庭、道端などに生育する。茎は短く根本で分枝し、ほふく状になって地表に広がり、上部は斜上する。高さ20～40cm。茶褐色を帯び、上向きの軟毛がある。葉は互生し、3個の小葉からなる複葉。小葉は狭卵形で先は円形少し凹む。5～8月に葉腋から花柄を出し、先に黄色の花を密集してつけ花穂となる。各地に帰化。

ネコハギ (マメ科) *Lespedeza pilosa* Seib. et Zucc. P78

多年草。畑地や空き地、芝生などに生育する。全体に柔らかい毛が密生。茎は針金状で地表をはって広がる。葉は互生し、柄があり、3個の小葉からなる複葉。小葉は広倒卵形で先は丸いかわずかに凹む。8～9月に葉腋から花柄を出して先に色色の花を2～5個つける。果実は卵円形で網目状の脈と長い毛がある。〔分布〕本州～九州